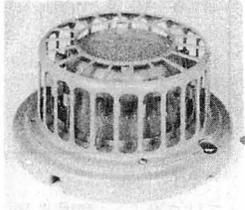


の距離も規程により正しく確保する必要がありますので、これらを調整するため乗降場においては笠石は主要な部分である。その材質も踏心地よくすべらず耐久力あり、欠けやすくなくしかも低廉でなければならぬ。一般に石材、コンクリートブロック等が用いられるが、仮乗降場などの短期間のものは木材を使用することがある。(杉田勝美)

かさいほうちき 火災報知器 駅・事務室など火災に対する予防・早期発見のために設備するもので、出火の際これを速かに監視者または消防署に知らせる、自動または手動の装置である。



1. 火災感知器

自動式の主要機器は出火の際自動的に火災の発生したことを受信盤に感知させる火災感知器と、火災感知器からの信号によって火災発生を監視者に知らせる受信盤とである。火災感知器は温度上昇率が一定の値をこえたときに動作する差動式と、一定温度以上になったときに動作する定温式に分けられる。差動式はその動作する温度によってつぎのように細分されている。

L 級 感度のもっとも敏感なもので主として火の気のない場所に取付け、1個当りの警戒面積は耐火建築 64m²、木造事務室 36m²、木造家屋 17m²である。

M 級 中感度のもので暖房そのほか火気のある場所にも取付けられもっとも用途が広い。1個当り警戒面積はL級と同じ。

H 級 比較的感度の鈍いものでとくに温度変化率の大きい場所に取付けられ、1個当り警戒面積は耐火建築 64m²、木造事務室 36m²、木造家屋には適しない。



2. 手動式火災報知器

また差動式火災感知器の機能は第1表の通りである。

第1表 差動式火災報知器の機能

級別	規定値	K°c	Vcm/秒	N 秒	T°c/分	M 分	t°c/分	m 分
L 級		10	50	30	5	4	2	10
M 級		20	70	30	10	3	2	15
H 級		30	85	60	10	4	2	15

1 室温中に5分間以上放置した感知器を室温より k°c 高い風速毎秒 Vcm の気流中に入れたとき N 秒以内に動作すること。

2 室温中に5分間以上放置した感知器を室温より K/2°c 高い気流中に入れたとき 2N 秒以内に動作しないこと。

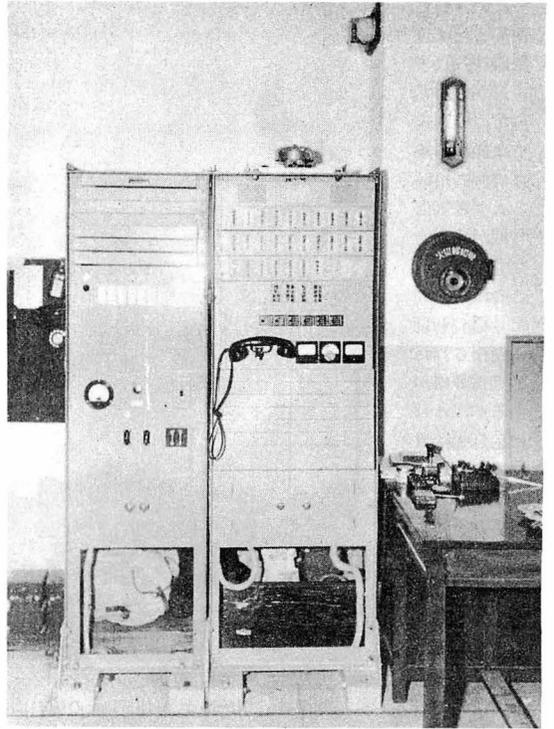
3 感知器を毎分 T°c の割合で直線的に上昇する気流中に入れたとき M 分以内に動作すること。

4 感知器を毎分 t°c の割合で直線的に上昇する気流中に入れたとき m 分以内に動作しないこと。

定温式感知器の機能は第2表の通りである。

第2表 定温式感知器の機能

表示温度	室 温	0° C	10° C	20° C	30° C
45 ~ 65° C		120 秒	110 秒	100 秒	86 秒
66 ~ 100° C		120 秒	114 秒	108 秒	100 秒



3. 受信盤の例

1 室温に保った感知器をその表示温度(摂氏温度の数値)の130% 高い空気中に入れた場合第2表の時間内に動作すること、室温が前表の中間にあるときの秒数は按(あん)分比例により定めること。

2 表示温度(摂氏温度の数値)の80% の温度の連続30分間の加熱で動作しないこと。

受信盤を分けて A 級, B 級の2種とする。

A 級 重要な保護物など、その火災報知の確実性を特に要求される場所に使用するもの

B 級 家庭など比較的簡便なことを要求される場所に使用するもの

受信盤の機能の概要は下記の通りである。

A 級 電源電圧は60V 以下の蓄電池を使用し、火災信号がどの区域から発せられたかを指示装置により自動的に指示する能力を有し、手動で復旧しないかぎりその指示を継続するものである。また正常動作を阻害する断線の起った場合それを自動的に指示する装置を設け、故障が復旧するまで信号を連続的に鳴らすようにしたもの。

B 級 火災信号がどの区域から発せられたかを音信号および指示装置により指示する能力を有し、電源は24V 以下の蓄電池・乾電池などによるもの。

手動式火災報知器の構造は、報知器を動作させるボタンは報知器のほかの部分と電気的に絶縁され、またボタンが容易に見えるようなカバーを設け、ガラスを破るかカバーを開くことにより容易にボタンが動作できるものである。(西野敏男)

かさおき 嵩置 築堤が自体の収縮または雨水の浸入による土砂の流失等のため所定の高さより沈下したとき、所定の高さにするために築堤の上面に土砂を盛上げをいう。(尾崎 寿)
かさねいたばね 重ね板ばね (英) plate or laminated sp-